

北中かわら版

「北中かわら版」は地域医療連携のための広報誌です

「第30回小矢部川メディカルカンファレンス」開催

北陸中央病院理念

「人間愛に基づいた医療を通じて
社会に貢献します。」

基本方針

1. 安全には細心の注意を払い、安心の医療に努めます。
2. 心のふれ合いを大切にし、人権を尊重します。
3. 情熱と生き甲斐をもち、常に前進を図ります。
4. 小矢部市の中核病院として急性期と地域医療の共存を果たします。
5. 公立学校共済組合員や地域の人々の健康管理事業に力を注ぎます。
6. 健全な経営に努めます。

平成30年10月16日（火）に北陸中央病院講堂で、恒例の第30回小矢部川メディカルカンファレンスが開催されました。このカンファレンスは年2回春と秋に開催され、その趣旨は小矢部市医師会の開業医の先生方から北陸中央病院に紹介された多くの患者さんの中から、学問的に見て比較的面白い経過をたどった患者さんの経過を報告するという目的で始められた会であると聞いています。

今回は、畠山収一Dr.と武藤寿生Dr.のお二人に司会いただきました。内科からは若林Dr.の「救急搬送時の低カリウム血症対策」、藤堂Dr.の「当院における冠動脈CTの実施状況」の2題、外科からは私の「平成30年度上半期の当院呼吸器外科の実績」の1題があり、それぞれが日常臨床に役立つ情報を含んだ講演であり、有意義なカンファレンスであったと思われました。

今回のかかわら版では、外科の私が発表した内容を、講演に使用したスライドの一部を添付して、簡単に解説させていただきますので、しばらくの間よろしくお付き合いの程、お願い申し上げます。

病院長 清水 淳三

「平成30年度上半期の当院呼吸器外科の実績」

症例1

患者：80歳代女性

紹介：畠山内科クリニック 畠山収一Dr.

af、DMのため、畠山医院でfollowされていた。H27年頃から、左下肺野に淡い陰影を認めており、follow-up CTで舌区のmassのsize upを認めたため、肺癌を疑って当科に紹介された。

術式：左上葉舌区切除術 (H30.6月)

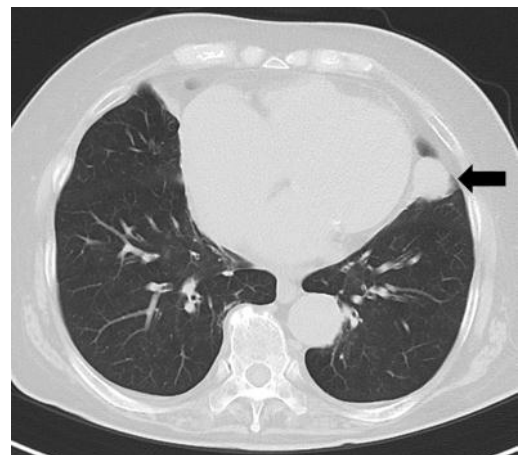
病理診断：腺癌 (pT2aNOMO, IB期)

生死：術後5ヶ月生存

胸部レントゲン



胸部CT



症例2

患者：80歳代男性

紹介：青木内科医院 青木哲郎Dr.

〔 検診の目的で、青木内科で胸部X-Pを撮ったところ、左中肺野にmass様陰影を指摘されたため、精査・加療の目的で当科に紹介された。・血清CEA値：5.5 ng/mL と微増。 〕

術式：左上葉舌区域切除術（H30.7月）

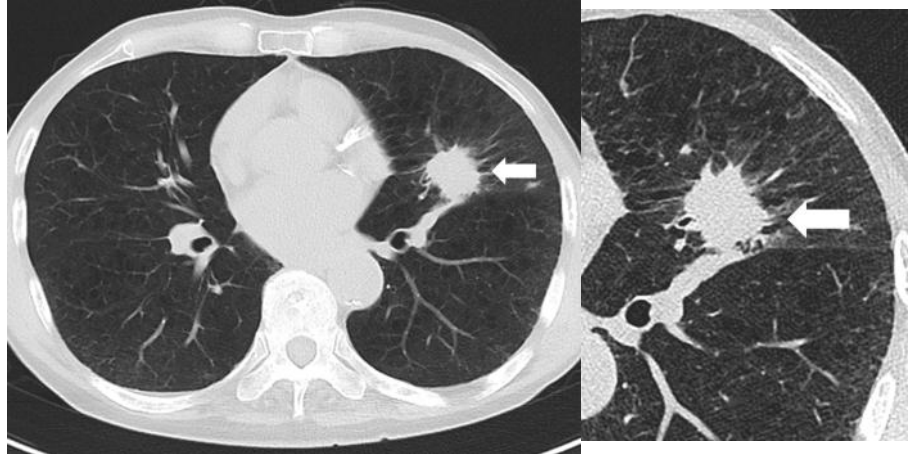
病理診断：腺癌（pT2aN2M0, IIIA期）

生死：術後4ヶ月生存

胸部レントゲン



胸部CT



症例3

患者：90歳代女性

紹介：沼田医院 沼田仁成Dr.

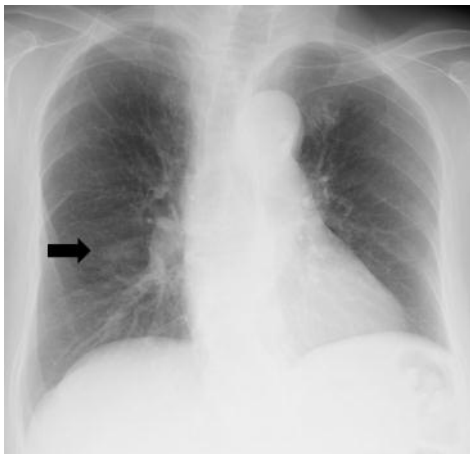
〔 H30年度の小矢部市の検診で、胸部異常陰影を指摘され、沼田医院を受診し、同院から当院放射線科にCTを依頼され、右中葉肺癌が疑われたため、加療の目的で、当科に紹介となった。 〕

術式：右中葉切除術（H30.9月）

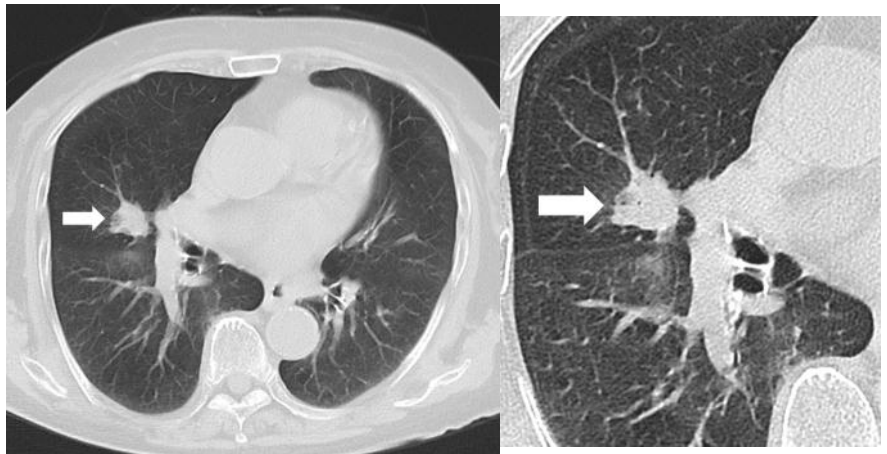
病理診断：腺癌（pT1bN0M0, IA2期）

生死：術後2ヶ月生存

胸部レントゲン



胸部CT



症例4

患者：60歳代女性（富山市在住）

紹介：当院内科 中屋雅子Dr.

H30年度の当院ドックで、初めて胸部異常陰影（GGO）を指摘され、その2次検診のため、外科で胸部CTを施行し、右上葉に径2cm大のmass像を認めた。富山市の患者さんであるが、当科でのop.を希望して、当科に入院した。

術式：右上葉部分切除術（H30.9月）

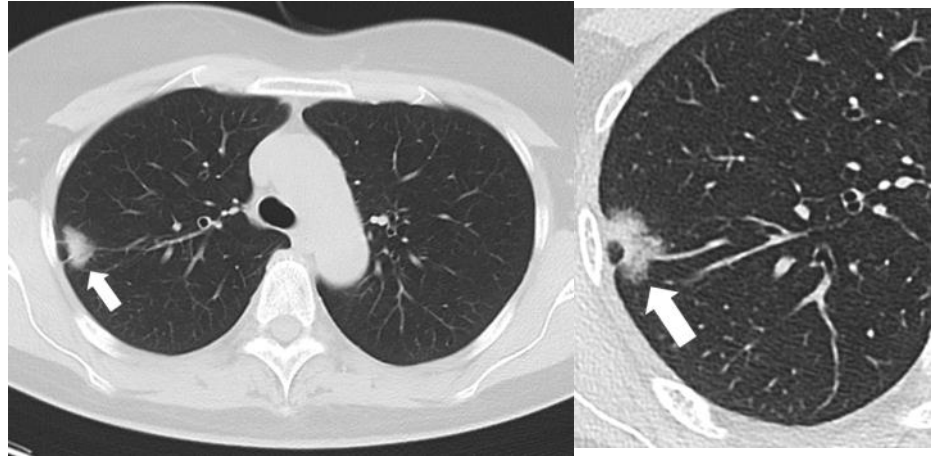
病理診断：腺癌（pT1bNOMO, I A2期）

生死：術後2ヶ月生存

胸部レントゲン



胸部CT



肺がんCT

私は常日頃から、「肺がんの中にはレントゲンでは分かりにくい、CTなら容易にわかる症例がたくさんあるので、がん年齢層になったら3年に1回くらいは肺がんCT検診を受けて下さい!」と言い続けて来ました。今回、お示した4症例はいずれも、レントゲンでは比較的分かりにくい症例でしたが、各先生方が早めにCT検査にまわして下さいのおかげで、肺がんという診断に至るまでに要した時間は短く、スムーズに外科手術を施行する事ができました。今後は各症例とも、何とか長期生存に繋がるようにしっかりとフォローアップさせて頂きます。

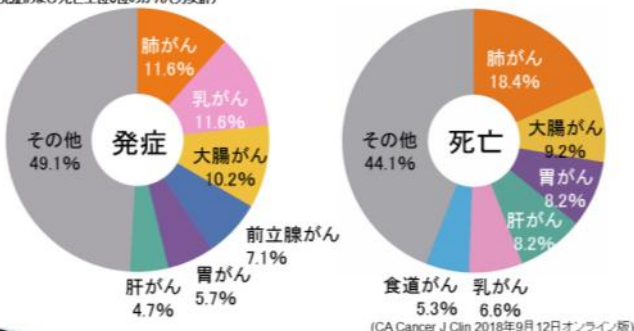
2018年のがん統計によりますと、下図のごとく肺がんが発症、死亡の両方ともにトップになった様です。昨年までは、発症においては肺がんは第2位とされてきたのですが、残念ながら今現在も肺がんが増え

続けているという事になると思います。禁煙キャンペーンなどは比較的行き届いているはずなのですが、まだまだその情報が足りないという事でしょうか？私としましては、肺がんの一次予防として、今後も禁煙外来などで地道に禁煙活動を普及させていきたいと思えます。

また北陸中央病院では、肺がんの二次予防として肺がんの早期発見・早期治療に努めており、人間ドックでのオプションによるCT検診や、小矢部市肺がんCT検診などを請け負ってきました。これまでに多くの早期肺がん患者さんを発見し治療に導いています。当院には肺がん検診認定医師が1名、同認定技師が2名おり、さらに1名の放射線科医師も加わったトリプルチェックを行って、CT診断の精度向上を図ってきました。それらの成果とCTの被ばく線量軽減などの努力などが認められて、北陸中央病院はH30年に「肺がんCT検診認定施設」に認定されました。

IARC 2018年がん統計 肺がんが発症、死亡ともトップ

(注) 発症および死亡上位6位のがん(男女計)



さいごに

当院ではこれからも、小矢部市民や公立学校共済組合員の肺がん死亡率の低下に貢献できるように、CT検診の必要性・重要性を説き、肺がんCT検診が普及するように努めていきたいと考えています。また早期発見された肺がん患者さんは、呼吸器外科専門医のいる北陸中央病院で、出来るだけ早期に胸腔鏡手術による呼吸機能温存手術を受けて頂けますように、アピールして行きたいと考えていますので、何卒ご理解の程、お願い申し上げます。



砺波医療圏大規模災害訓練

2018年11月11日（日）

砺波医療圏大規模災害訓練とは、砺波救急医療・消防連携協議会が行う訓練で、今回は大規模な事故を想定して行われました。本訓練は、毎年行われており、今年も当院駐車場で実施されました。



おやべケーブルテレビ「健康サポート」番組

第7回は「お薬は正しく使いましょう」でした。

見逃した方は当院ホームページにて動画を見ることができます。



その目的は、万一の時の対応確認や、医療と消防の連携を密にすることです。訓練には、協議会に所属する病院や砺波地域消防組合等から約80人が参加、当院からも医師、看護師が参加しました。

事故の想定は、小矢部市内の交差点で中型バスが歩行者をはね、停車中の乗用車に衝突、多数の負傷者が出たというものでした。

訓練参加者は、模擬事故現場の状況確認や、現場からの模擬負傷者の搬出・トリアージを行い、救急車による搬送訓練も行われました。また、訓練にはドクターヘリも参加し、当院ヘリポートで救急車との連携も確認していました。



テーマ
お薬は正しく使いましょう

- 薬の種類について
- 薬の使い方について
- お薬手帳について

薬の種類は大きく3つに分類される

| | | |
|-----------------------------|------------------------------|-----------------------|
| 内服薬 カプセル、錠剤、シロップ剤 | 外用薬 軟膏、点眼薬、点耳薬、吸入薬 | 注射薬 点滴薬、注射薬 |
|-----------------------------|------------------------------|-----------------------|

錠剤やカプセルにしてある理由

- 飲みやすいため
- 長い時間、効くようにするため
- 光から薬を保護するため
- 胃酸（酸ですり）がみづらい人のため
- 胃の中で溶けないで腸に行ってから溶けるようにするため

まとめ

- 薬は正しく使いましょう
薬を自分勝手に使わないようにしましょう
- 薬はコップ1杯の水かぬるま湯で飲みましょう
※特別な指示のある場合を除く
- お薬手帳はあなたの健康のパートナーです積極的に活用しましょう



ホームページはQRコードで検索出来ます。